

飯山市美術館運営協議会 会議録

- 開催日 平成30年2月23日(金)午後3時30分～4時45分
○開催場所 飯山市公民館101会議室
○参集者 委員：吉越隆師(会長) 千坂経悦(会長職務代理) 青木勇治 廣靖彦 森崎鉄兵
堀川とし子 ※2名欠席
市側：長瀬哲(教育長) 栗原良満(美術館長) 井端伸介(美術館係長) 小林隆子

1 開 会

2 あいさつ

会 長： 新年度事業の提案もあるので充分にご審議をいただきたい。

教育長： 昨年は正受老人と白隠の展示でお力添えをいただいたが、飯山市としては良い機会になったと感じている。その際、配布したパンフレットもあるので改めてご覧いただきたい。また、新年度いろいろな企画があるが、飯山市民が美術館を楽しみながら活用していただきたいと考えているので、ご審議をお願いしたい。

3 協議事項 ※委員からの主な質問、意見及び事務局の回答等

(1) 平成29年度事業について(報告)

委 員： 入館者数について市内と県外の比率はわかるか。

事務局： 市内か市外かおおよその見当はできるが、区別していないのでわからない。

委 員： 中川岳二展では中野市からの入館者は多かったか。

事務局： 中野市からの来館が特別多かったという感じではなく、市外県外から大勢来館したという印象である。民放テレビ局2社が大きく取り上げた影響が大きく、テレビを見たので来たという来館者がとても多かった。

(2) 平成30年度事業計画(案)について

委 員： この一年間の様子を見てきたが、これだけの人口規模の美術館でこんなことができるのかと驚いた。敬意を表している。次年度もこういった計画で進めていただきたい。

さらに学生、小中高生とか、あるいはお年寄りに近づくような、ワークショップを中心にしたような何かを機会があれば考えていただきたい。

美術館だけで全部やらなくても絵画教室などに任せてやってみるなど、どうかたちであれ、一回でも二回でも美術館に足を運んでもらえるようにしてはどうか。

事務局： 大変参考になる。たまたま昨日、児童センターの担当者から3月27日に子どもたち30人を連れて美術館に来るという電話があつて話をした。忙しい時期などは難しいが、条件が合えばこちらから出て行って何かするという事も今後検討していきたい。

委 員： 県の美術館で若手の芸術家を紹介する企画をやっていた。飯山市でもこれから活躍する若手が出てくると思うが、若い人でこんな人がいるという情報が知りたい。

事務協： 市内の若い方でどんな方がいるのかについては美術館でも情報が不足している。今後、そのあたりのアンテナを高くしていく必要があると感じている。

会 長： 2階ギャラリーをもっと利用してもらえるよう使用料や無料券がどれくらい出るなど、わかりやすいものを作って配布してほしい。一年中空くことなく使ってもらいたい。

ある程度長くやっていて賞も取っている中堅団体の人が2、3人で作品を飾りたいとときに会場がない。使用料を減額する方法を検討してほしい。無料で使えるようにならないか考えてほしい。

事務局： 基本的には使用料が壁となってほとんど使われず今に至っている。使用規定を再度確認する。

委 員： お金がかかると思うがライブ制作ができれば良いと思う。木彫作家のライブ制作をやったことがあるが結構人が集まった。大学の先生や学生によるライブ制作ができれば、市民も刺激を感じることができるのではないかと。

館 長： お話の森林組合関わった木彫制作と国際雪像芸術祭はとてもお金がかかったと聞いている。

委 員： 専門家による雪像づくりは道具や雪に水を混ぜて作るなど、感化されるものがある。

委 員： 城南中学校の校舎はどのように使うかまだ決まっていないと思うが、ワークショップの会場として使ってみるとか、美術館の中でこじんまりやるのも良いが大きく構えてみるのも良いのでは。あと、長野に美術の専門学校があるからその学生たちに制作発表をやってもらうとか、そういう企画があってもよいと思う。信大の教育学部もある。

事務局： 長野の美術関係の学生にも関心を持つようにして、今後研究していきたい。

(3) 平成31年度以降の企画展（案）について

委 員： 木原正徳展の開催はありがたい。できればその数年後に滝純一先生の個展も開催していただければと思う。

事務局： 活躍されている画家のお一人なので、今後検討させていただく。

委 員： 2階ギャラリーを使わせていただきたいとずっと思っていたが、そこを見るには一般の入館者も入館料がかかるのか。

事務局： 基本的には必要になる。ギャラリーだけを見るわけではなく、伝統産業会館や奥の展示室も一緒に見ていただくことになるので、入場券が必要になるという考え方になる。

会 長： その時に入館券が出るという話はなかったか。

事務局： 美術館の企画であるギャラリー展と位置付けて開催するときは200枚の入館券が出ることになっている。入館券の使用枚数が200枚を超えたときは、超えた分を団体料金で精算していただくことになっている。

委 員： 私たちの作品はサイズが大きいのでなかなか良い展示会場がなくて悩んでいる。美術館のギャラリーはずっと良い場所と思っている。

委 員： これだけのお金を出して場所を借りて、それは主催している者が借りているからそれはそれでいいのだと。だけどそれは誰かに見てもらうためにやっている。お金を払って展示することだけが目的ではない。使用料というのは何なのかと感じてしまう。使用料とは入館者も込みで使用料という発想に展示する側としてはなってしまう。

会 長： 市民のための美術館ということでよろしくお願ひしたい。

委 員： 土のワークショップに関して、土の色だけを見ると絵具の方が多い。土の絵の具だけを無理して使うことに関心があるようだが、土本来の役割や性質、機能はいろいろある。そ

ういうものを知りながら飯山の土はどういう土か、そこからこの色が大事だと。あまり絵具としてだけ捉えていてもったいない感じがする。

(4) その他
特になし

4 閉 会